

## ISO 便り (TC 35/SC 9 委員会 活動報告)

ISO/TC 35/SC 9 国内委員会事務局

一般財団法人 日本塗料検査協会

調査研究部 宮川 堅次

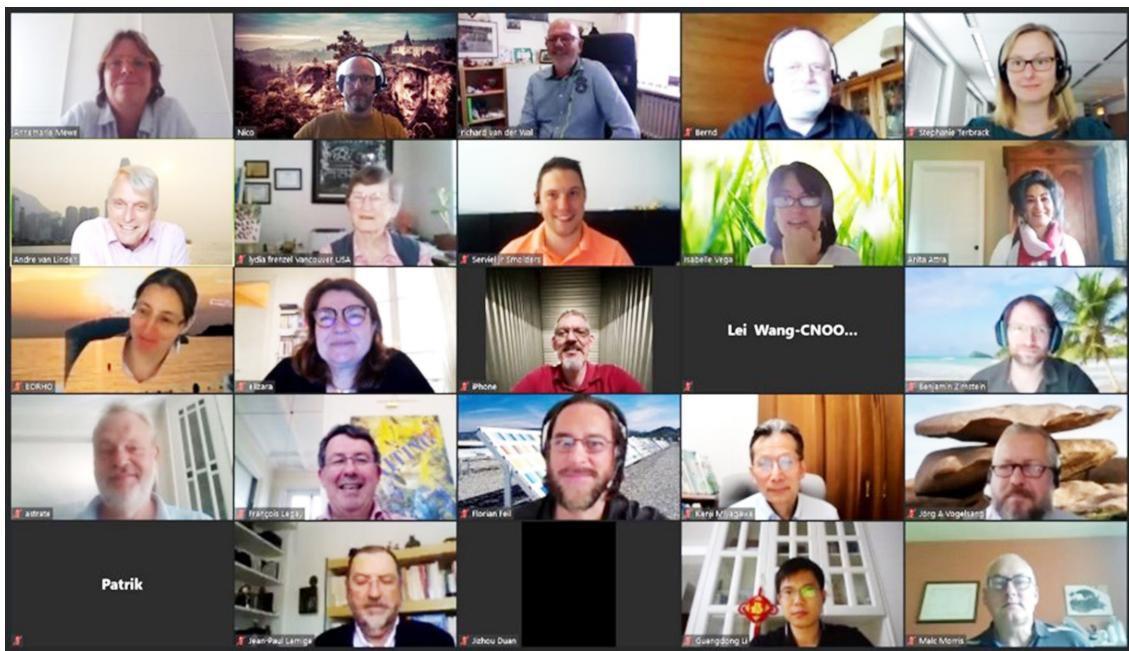
## 1. まえがき

2020年のISO/TC 35（塗料とワニス専門委員会）国際会議週間は、6月中旬に米国ピッツバーグでの開催が予定されていたが、2019年末、中国武漢に端を発した新型コロナウイルスの感染拡大の影響により会議をリモートで行うことになった。これは3月12日にWHOがパンデミックに至ったとの認識を示したことを受け、ISO中央事務局が2020年6月30日まで全ての会議を遠隔で行うよう通達したことによる。

日本から出席したTC 35及びTC 35/SC 9のリモート会議のスケジュール及び参加状況は以下のとおりである。

TC 35/SC 9 委員会 6月18日(木) 20:00～22:00 (日本時間)

参加人数 36名 (ドイツ 8名, 中国 8名, オランダ 5名, 日本 4名, 英国 4名, 米国 2名, スイス/フィンランド/スウェーデン/フランス/ケニヤ 各1名)



写真－1 TC 35 リモート会議の集合写真

この対応で、TC 35/SC 9（塗料一般試験方法分科委員会）もリモートで行うことになり、例年同時に開催されるワーキンググループ（WG）のWG 29（電気化学的試験方法）、WG 30（硬化前の塗料の性能）、WG 31（硬化後塗料の性能）、WG 32（風力発電ローターブレード用塗料）の各会議は中止又は延期となった。

日本からの参加者（敬称略・順不同、以下同様）

須賀茂雄：TC 35/SC 9 委員 /WG 31 副主査 /WG 30

委員（派遣代表）スガ試験機㈱

井賀充香：SC 9 委員 /WG 30 委員 / WG 31 委員

日本ペイントホールディングス㈱

小川 修：TC 35 国内事務局

(一社)日本塗料工業会  
宮川堅次: TC 35/SC 9 国内事務局  
(一財)日本塗料検査協会

TC 35 総会 6月19日(木) 20:00~22:00 (日本時間)  
参加国: ドイツ, フランス, アメリカ, オランダ,  
スイス, イギリス, ノルウェー, 中国, 日本  
日本からの参加者  
小川 修: TC 35 国内事務局  
(一社)日本塗料工業会  
宮川堅次: TC 35/SC 9 国内事務局  
(一財)日本塗料検査協会

各WGの会議については、新型コロナウイルス感染が収束しないことからISO中央事務局が2020年11月時点で来年2月までリモートで実施するよう通達している。なお、2020年10月以降の活動報告については次の機会に議ることとする。

TC 35/SC 9各WG会議の審議事項及びSC 9決議内容及びTC 35総会について以下に報告する。

#### 【参考】略号(開発段階、用語)

PWI: 予備業務項目, AWI: 承認済業務項目, NP 又はNWIP: 新規提案, WD: 作業原案, CD: 委員会原案, DIS: 国際規格案, FDIS: 最終国際規格案, IS: 国際規格, SR: 定期見直し, TR: 技術報告書, TS: 技術仕様書, PL: プロジェクトリーダー, RRT: ラウンドロビンテスト

## 2. TC 35 / SC 9 塗料の一般試験方法

### 2.1 TC 35 / SC 9 / WG 16 粉体塗料

#### 2.1.1 改訂事案

WG 16では粉体塗料の包括的な規格であるISO 8130シリーズの改訂を2015年から開始し、Part 1, 7, 11, 12, 14の改訂を優先的に進めて2019年にISの発行を完了している。残るPartについて以下のように改訂を進めている。

- (1) ISO/CD 8130-2 (Ed 2), Coating powders — Part 2: Determination of density by gas comparison pycnometer (referee method) (ガス比較ピクノメーター(レフリー法)による密度の測定)  
使用ガスを空気又はヘリウムからヘリウム又は窒素への変更が提案されている。
- (2) ISO/CD 8130-3 (Ed 2), Coating powders

— Part 3: Determination of density by liquid displacement pycnometer (液体置換ピクノメーターによる密度の測定)

ピクノメーターの洗浄にアセトンを使用しないよう削除し、操作においてピクノメーターへの充填順序(半分量の溶剤を先)の変更が提案されている。

- (3) ISO/CD 8130-5 (Ed 2), Coating powders — Part 5: Determination of flow properties of a powder/air mixture (粉体/空気混合物の流動性の測定)  
試験温度及び湿度に関する要求条件の導入などの改訂が提案されている。

(4) ISO/CD 8130-6 (Ed 2), Coating powders — Part 6: Determination of gel time of thermosetting coating powders at a given temperature (所定温度における熱硬化粉体塗料のゲル化時間の測定) (対応 JIS: K 5600-9-1)

装置において窪みのない加熱ブロックの使用も可とし、操作において離型剤の処理を削除、また測定は2回から1回のみにするなどの改訂が提案されている。

- (5) ISO/CD 8130-8 (Ed 2), Coating powders — Part 8: Assessment of the storage stability of thermosetting powders (熱硬化型粉体塗料の貯蔵安定性)  
試験パネルとして前処理アルミニウムパネルを追加、及び粉体塗料の凝集の程度に関する4つの異なる順位付けを記述した表を削除して判断基準を「広範な凝固」の有無のみとするなどの改訂が提案されている。

(6) ISO/CD 8130-10 (Ed 2), Coating powders — Part 10: Determination of deposition efficiency (塗着効率の測定)

試験報告書において、スプレー条件の詳細についての記録を含めるなどの改訂が提案されている。

- (7) ISO/CD 8130-11 (Ed 2), Coating powders — Part 11: Determination of deposition efficiency (塗着効率の測定)

試験報告書において、スプレー条件の詳細についての記録を含めるなどの改訂が提案されている。

上記6つのドラフトは2月にPWIとしてCIB投票が行われた後、5月末にそれぞれCD投票が行われた。コメントはPart 6に1件(編集上、日本)があったのみで、いずれもDIS段階へ進むことになった。

## 2.1.2 共同改訂事案

- ・ISO 8130-4 (Ed 2), Coating powders — Part 4: Calculation of lower explosion limit (粉体爆発下限濃度)

本規格は性能試験規格ではなく安全規格であるため、今回の改訂においては、WG 16 では編集上の改訂のみを行い、CEN/TC 305/ WG 1 への移管を推奨した。SC 9 決議においては、今回の改訂では編集上の改訂のみとし、次のSRの段階において、関連する CEN/TC305/WG 文書と調整し、更新することとなった。

## 2.1.3 新規格作業事案

- (1) ISO/NP 8130-15, Coating powders — Part 15: Rheology (レオロジー)

Anton Paar 社の測定器をベースとした粉体塗装プロセスに影響する流動化パラメーターを評価する規格である。4月にNP投票が行われ、日本はコメント無し賛成で投票した。二次募集でエキスパート参加が5か国となり登録が承認されることになった。

- (2) ISO/NP 8130-16, Coating powders — Part 16: Density via liquid displacement in a measuring cylinder (粉体塗料—第16部：メスシリンダーを用いた液体置換による密度測定)

メスシリンダーにより一定体積量の試料を計り、試料を変質させない液体を加えて空気を置換することにより粉体塗料の密度を求める方法を規定している。Part 3を補完する規格となる。6月にNP投票が行われ、賛成多数、反対0で承認された。

## 2.2 TC 35 / SC 9 / WG 29 電気化学的試験方法

### 2.2.1 改訂事案

- ・ISO 17463:2014, Guidelines for the determination of anticorrosive properties of organic coatings by accelerated cyclic electrochemical technique (促進サイクリック電気化学技法による有機被膜の防食特性の求め方)

2019年のSR投票においてコメントがいくつか寄せられたことを受け、WG内投票を経てSC 9会議において改訂することが決議・合意された。スコープは変更しない。9月にはCD投票が行われた。

## 2.2.2 新規格作業事案

- (1) ISO/AIW TR 5602, Sources of error in the use of electrochemical impedance spectroscopy for the investigation of coatings and other materials (塗装材料等の研究のための電気化学的インピーダンス分光法(EIS)におけるエラー要因)

2019年上海会議において提案され、今年のSC 9会議にてTRとしての登録が合意された。6月にドイツ・スイスから提案のTRドラフトにてWG内投票が行われ、次の段階へ進むことになった。

- (2) ISO/AIW TR 5604, Test method for assessment of protection of metal by organic coatings using Electrochemical Noise Measurements

(電気化学ノイズ測定を用いた有機被膜による金属保護性評価のための試験方法)

今年のSC 9会議において正式に提案され、TRとしての登録が合意された。6月にドイツ・スイスから提案のTRドラフトにてWG内投票が行われ、次の段階へ進むことになった。

## 2.3 TC 35 / SC 9 / WG 30 硬化前塗料の性能

### 2.3.1 改訂事案

- (1) ISO/FDIS 1524 (Ed 5), Paints, varnishes and printing inks — Determination of fineness of grind (ワニス及び印刷インキ—分散度の測定) (対応 JIS : K 5600-2-5)

2018年ブルノ会議でのSR改訂決議により改訂が進められた。ゲージ材料に他の素材も使用できるとし、また3本溝のゲージが追加された。5月にFDIS投票が行われ、賛成多数、反対0で承認されて6月にISが発行された。

- (2) ISO/DIS 3219, Rheology (レオロジー) (対応 JIS : K 7117-2)

— Part 1: General terms and definitions for rotational and oscillatory rheometry (回転及び振動によるレオロジー測定に関する一般用語と定義)

— Part 2: General principles of rotational and oscillatory rheometry (回転及び振動によるレオロジー測定的一般原理)

4月にDIS投票が行われ、いずれも承認された。SC 9/WG 30委員からのコメントは無かつ



たが共同開発の ISO/TC 61/SC 5 から多数のコメントがあり、両者で協議の上 FDIS ドラフトが修正され、SC 9 会議において FDIS へ進めることが合意された。

Part 1 については9月に FDIS 投票が行われ、賛成多数、反対0で承認された。

- (3) ISO 19403-1:2017, Wettability — Part 1: Terminology and general principles (濡れ性 — 第1部：用語と一般原理)

国際中央事務局より本文の図の軸ラベルにミスがあるとの指摘があったため、SC 9 会議において DIS 段階から改訂を行う決議が提案され合意された。

### 2.3.2 新規格作業事案

- (1) ISO/PWI 3219, Rheology (レオロジー)

— Part 3: Test procedure and examples for the evaluation of results when using rotational and oscillatory rheometry (回転及び振動での流動特性を利用した試験方法と結果評価の例)

— Part 4: Measurement errors caused by sample and application when using rotational and oscillatory rheometry (回転および振動での流動特性を利用したサンプルによって生ずる測定誤差と応用)

— Part 5: Calibration, adjustment, verification when using rotational and oscillatory rheometry (回転および振動での流動特性を利用した校正、調整、検定)

昨年の段階では、Part 3 は最初の WD がまもなく配信されるとの予定であったが、Part 4 及び Part 5 も含め 2021 年～2022 年初めに提出される予定であるとの報告があった。

- (2) ISO/FDIS 22553-8, Electro-deposition coatings — Part 8: Electric charge density (電着塗料—第8部：電荷(クーロン)密度)

5月に FDIS 投票が行われ、賛成多数、反対0で承認され、6月に IS が発行された。

- (3) ISO/PWI 22553-10, Electrodeposition coatings — Part 10: Edge protection (電着塗料—第10部：エッジ保護性)

パンチングとレーザーにより形成したエッジやホールのエッジ部の保護性を評価する方法

で、開発中の規格として紹介があった。SC 9 会議においてアクティブ化が合意された。現在、ドイツにおいて研究所間試験を行っている。

- (4) ISO/DIS 22553, Electrodeposition coatings (電着塗料)

— Part 13: Determination of re-solving behaviour (再溶解性)

— Part 14: Deposition behaviour (析出挙動)

2019 年上海会議で提案されたもので、昨年9月に NP 投票で承認され、2020 年2月に CD をスキップするための WG 内投票が行われた。Part 14 は4月に CIB 投票により、また Part 13 は SC 9 会議において CD をスキップして DIS 段階へ進めることが合意された。その後、Part 14 は9月に DIS 投票が行われ、承認された。

### 2.3.3 将来事案

- (1) ISO/PWI 22553, Electrodeposition coatings (電着塗料)

— Part 15: Permeate residue (浸透残渣)

— Part 16: Pigment-binder ratio (顔料-バインダー比)

ドイツ規格(現在国内で投票中)をベースに2021年に上記2件の NWIP 提案を予定しているとの紹介があった。SC 9 会議において、PWI への登録が合意された。

- (2) ISO/NP XXXXX, Determination of preservatives in water-dilutable coating materials (水性塗料保存剤の測定)

— Part 1: Determination of in-can free formaldehyde (遊離ホルムアルデヒド)

— Part 2: Determination of in-can total formaldehyde (全ホルムアルデヒド)

— Part 3: Determination of in-can isothiazolinones with HPLC/UV and HPLC-MS-MS (イソチアゾリノン類)

2019 年上海会議で提案され、中国、フィンランド、ドイツ、イタリア、オランダで共同開発中である。新 SC (SC 16: 化学分析) での規格開発が予定されている。

### 2.3.4 2020 年定期見直し事案

以下の4件の SR 投票が9月に行われ、ISO 1513、ISO 3233-3 及び ISO 9117-3 において改訂を求めるコメントがなされた。改訂の要否については今後議

論される。

- ① ISO 1513:2010 (Ed 4), Examination and preparation of test samples (試験用試料の検分及び調整) (対応 JIS : K 5600-1-3)
- ② ISO 3233-3:2015, Determination of the percentage volume of non-volatile matter — Part 3: Determination by calculation from the non-volatile-matter content determined in accordance with ISO 3251, the density of the coating material and the density of the solvent in the coating material (不揮発分容積%の測定—第3部: ISO 3251 に従って求めた不揮発分含有量からの計算による測定, 被覆材料の密度及び被覆材料中の溶剤の密度)
- ③ ISO 9117-2:2010, Drying tests — Part 2: Pressure test for stackability (乾燥試験—第2部: 耐圧着性) (対応 JIS : K 5600-3-5)
- ④ ISO 9117-3:2010, Drying tests — Part 3: Surface-drying test using ballotini (乾燥試験—第3部: バロチニによる表面乾燥性) (対応 JIS : K 5600-3-2)

## 2.4 ISO / TC 35 / SC 9 / WG 31 硬化後塗料の性能

### 2.4.1 改訂事案

- (1) ISO/FDIS 2409 (Ed 6), Cross-cut test (付着性—クロスカット法) (対応 JIS : K 5600-5-6)

2018年ブルノ会議での改訂決議に従い、2019年11月にDIS投票、2020年7月にFDIS投票が行われ、賛成多数、反対0で承認されて8月にISが発行された。カッター刃の厚みが(0.43 ± 0.03) mmから(0.4 ± 0.1) mmへ変更されたため、例えばJIS K 5600-5-6を引用するJIS K 5659などにおいて規格外となる小型A刃カッター刃もISOでは使用可能範囲になる。

- (2) ISO/DIS 2810 (Ed 4), Natural weathering of coatings — Exposure and assessment (屋外暴露耐候性) (対応 JIS : K 5600-7-6)

2018年SR及びブルノ会議での改訂決議に従い、結露時間及び降雨時間の報告項目を湿潤時間として一纏めにするなどの改訂がなされた。今年2月にDIS投票、7月にFDIS投票が行われ賛成多数、反対0で承認されて9月にISが

発行された。

- (3) ISO/DIS 16474-3 (Ed 2), Methods of exposure to laboratory light sources — Part 3: Fluorescent UV lamps (促進耐候性試験方法—第3部: 紫外線蛍光ランプ) (関連 JIS : K5600-7-8)

2018年SR及びブルノ会議での改訂決議に従い、水噴霧時にブラックパネルの温度を制御しないように変更するなどの改訂が提案され、昨年12月にDIS投票が行われた。日本は編集上のコメントを10件行い、賛成で投票した。全体として43件のコメントがあり、SC 9会議での合意によりFDIS投票が9月に行われ、賛成多数、反対0で承認された。

- (4) ISO/CD 28199, Evaluation of properties of coating systems related to the application process (塗料一般試験方法—塗装工程に関連する塗装系の特性評価) — Part 1: Relevant vocabulary and preparation of test panels (関連用語と試験板の調製)

— Part 2: Colour stability, process hiding power, re-dissolving, overspray absorption, wetting, surface texture and mottling (色の安定性、各層の隠ぺい性、再溶解性、オーバースプレーの吸着、濡れ性、表面の模様及びまだら性)

— Part 3: Visual assessment of sagging, formation of bubbles, pinholing and hiding power (目視によるたれ性、発泡性、ピンホール及び隠ぺい性)

2018年のSR及びブルノ会議で合意された改訂決議に従い、Part 1では用語を見直し、Part 2では色むらの評価を測定技術と視覚的評価に分け、Part 3では測定手法を使用した評価を追加した改訂がそれぞれ提案された。4月にCD投票、9月にDIS投票が行われ、いずれも賛成多数、反対0で承認された。

### 2.4.2 新規規格作業事案

- ・ISO/NP 11997-3, Determination of resistance to cyclic corrosion conditions — Part 3: Testing of coating systems on materials and components in automotive construction (サイクル腐食試験—第3部: 自

## 自動車構造材料及び部品の塗装の試験)

2019年上海国際会議で提案された、自動車用塗装部品をNaCl水噴霧/湿度/冷熱の各条件が異なる3つの組合せによりサイクル腐食させる試験方法のNP投票が行われ、日本は31件のコメント付き賛成とし、須賀副主査がエキスパートにノミネートされた。全体では賛成多数、反対0で承認された。7月にはCD投票が行われ、賛成11、反対1で承認された。CD投票では、NP投票での日本、米国、ポルトガルコメントが反映されていないCDドラフトが出されるという事務局のミスが判明したため、NP投票でのコメントをDISドラフトに反映するよう進めることとなった。

### 2.4.3 2019年定期見直し事案

#### 2.4.3.1 改訂規格

(1) ISO 16925:2014, Determination of the resistance of coatings to pressure water-jetting (高圧水噴射に対する塗膜耐久性試験)

2019年にSRが行われ、SC9会議で改訂決議がなされ承認された。

試験水温が20℃～80℃であることから水流量を容量管理から重量管理とすること、不適切なスプレーノズルの角度の修正などの改訂が提案されている。

(2) ISO 11998:2006, Determination of wet scrub-resistance and cleanability of coatings (耐洗浄性の測定及び被膜の清浄性) (対応 JIS : K 5600-5-11)

2019年にSRが行われ、SC9会議で改訂決議がなされ承認された。

フロートガラス支持板の上に試験片を挟み込む方法には今日いろいろな方法が出てきていることから、そのことを踏まえた改訂などが提案されている。

(3) 16474-2:2013, Methods of exposure to laboratory light sources — Part 2: Xenon-arc lamps (促進耐候性—第2部:キセノンランプ法) (関連 JIS : K 5600-7-7)

2019年上海会議において継続との決議がなされたが、今回のSC9会議においてドイツから昼光フィルタの分類を追加する提案があり、参考附属書を追加する形で追補を行う

ためにPWIへの登録が合意された。

#### 2.4.3.2 継続規格

・ISO 13803:2014, Determination of haze on paint films at 20° (20度角における塗膜上のヘーズの測定方法)

#### 2.4.4 2020年定期見直し事案

以下の4件のSR投票が9月に行われ、いずれの規格においても1～2か国から改訂投票がなされた。改訂の要否については今後議論される。

- ① ISO 1520:2006 (Ed 3), Cupping test (耐カップリング性) (対応 JIS : K 5600-5-2)
- ② ISO 1522:2006 (Ed 3), Pendulum damping test (剛体振子試験)
- ③ ISO 6860:2006 (Ed 2), Bend test (conical mandrel) (曲げ試験 (コニカルマンドレル))
- ④ ISO 21227-2:2006, Evaluation of defects on coated surfaces using optical imaging — Part 2: Evaluation procedure for multi-impact stone-chipping test (光学的画像を用いた塗装面欠陥の評価—第2部:多重衝撃ストーンチップング試験による評価方法)

#### 2.4.5 準備業務事案

・ISO/PWI 20567-4, Determination of stone-chip resistance of coatings — Part 4: Mobile multi-impact testing, small testing area (塗膜の耐チップング性—第4部:自動車用小面積多重衝撃試験)

2019年上海会議で提案された、ハンディー型の装置を用い2cm角の塗板で試験を行う規格で、SC9会議においてPWIとして登録することが合意された。詳細内容を明確化する必要がある、その上でWDがSC9へ送られる。

### 2.5 ISO/TC 35/SC 9/WG 32 風力発電ローターブレード用塗料

#### 2.5.1 技術仕様書 (TS) の改訂

- ① ISO/TS 19392-1, Coating systems for wind-turbine rotor blades — Part 1: Minimum requirements and weathering (風力発電ローターブレードの塗装システム—第1部:必要要件と耐候性) の改訂
- ② ISO/TS 19392-2, Coating systems for

wind-turbine rotor blades — Part 2: Determination and evaluation of resistance to rain erosion using rotating arm (風力発電ローターブレードの塗装システム—第2部: 回転アームを用いる降雨エロージョン耐性)

- ③ ISO/TS 19392-3, Coating systems for wind-turbine rotor blades — Part 3: Determination and evaluation of resistance to rain erosion using water jet (風力発電ローターブレードの塗装システム—第3部: ウォータージェットを用いる降雨エロージョン耐性)

上記3つのTSについては、現在、2021年のSRに向けた準備のために意見を募集中の段階にある。WGとして、SRの期限2021年4月15日までに、改訂、廃止又はIS化のいずれかの判断が求められている。

## 2.5.2 準備業務事案

- (1) ISO/PWI TS 19392-4, Coating systems for wind-turbine rotor blades — Part 4: Influence of rain erosion damage on the ice formation on rotor blade coatings (風力発電ローターブレードの塗装システム—第4部: 降雨エロージョンと組合わせた氷付着性の測定と評価)

PLのBuchholz氏がWG会議に欠席し、ドラフトの修正も進んでいない。2018年ブルノ会議でPWIの登録が承認されたので、2021年5月までにNPステージに進める必要がある。

- (2) ISO/PWI TS 19392-5, Coating systems for wind-turbine rotor blades — Part 5: Measurement of transmittance properties of UV protective coatings (風力発電ローターブレードの塗装システム—第5部: UV保護塗装の透過率特性の測定)

UV透過性の測定方法に関する規格であり、木材保護塗料の欧州規格案をベースとしている。2018年ブルノ会議でPWIの登録が承認されているので、2021年5月までにNWIPステージに進める必要がある。

- (3) ISO/PWI TS 19392-6, Coating systems for wind-turbine rotor blades — Part 6: Determination and evaluation of ice adhesion (風力発電ローターブレードの塗装シ

ステム—第6部: 氷付着性の求め方と評価)

WGの最優先事案として取り組んでいる。課題は再現性のあるデータを得るためのパラメーターの設定にある。現在各研究機関・企業で試験方法のラウンドロビンテストが行われており、2021年春に結果がまとまる予定となっている。

## 2.5.3 その他の開発事案

- ・ISO/PWI TS 19392-X, Coating systems for wind-turbine rotor blades — Part X: Determination and evaluation of resistance to soiling (風力発電ローターブレードの塗装システム—第X部: 耐汚染性の求め方と評価)

次回以降の会議で取り上げ、継続して議論していくことが確認された。

## 3. TC 35 総会 (関係分)

### 3.1 議事内容

- (1) ISO 行動規範について

今回、ISO 行動規範が改訂され、技術会議において常設の議題項目として加えられることになった。本会議においてもこの行動規範の内容説明が行われた。行動規範はISOの技術作業に関わるすべての関係者に適用される。

- (2) 新SCについて

Vogelsong氏を委員長としたTC 35/SC 16 (化学分析) が5月に設立し、第1回の委員会が2020年9月1日に行われるとの説明があった。

SC 9/WG 30の管理規格ISO 22518:2019及びISO 23168:2019の移管が提案されている。

- (3) SC 9委員会からの報告

SC 9事務局のAttria氏よりSC 9の活動状況および6月18日のSC 9会議内容について(決議17件)の報告が行われた。

### 3.2 次回以降のTC 35会議週間開催予定

2021年は6月14日～18日の日程でベルリン、2022年はアメリカのピッツバーグで開催が予定されている。2023年は英国での開催が検討されることになり、バックアップとしてアジア(日本を含む)が候補に挙がった。

## 4. あとがき

今年、2020年3月からの新型コロナウイルスの世界



的感染拡大から、残念なことに予定されていた米国ピッツバーグでの TC 35 会議週間は全てキャンセルとなった。しかし SC 9 会議がリモートで行われたことは幸いで、科学技術の発展と規格開発による恩恵の証左ともいえる。決議事項は17件と昨年より6件少ない状況となり、コロナ禍で規格開発のペースは落ちたが、それでも一歩一歩着実に進んでいることを伺い知ることができた。リモート会議ではチャットでのやり取りが公式発言以外の唯一の委員間の交流方法で、オランダ Nico 氏、中国 Duan 氏、米国 Oscar 氏と文字で挨拶を交わすことができたのは小さな喜びであった。

来年（2021年）については、現時点で6月にベルリンでの会議週間開催が発表され、個人的にはベルリンで各国の委員との笑顔での再会が出来ることを期待している次第である。来年は、東京オリンピック・パラリンピックの開催が期待され、またイギリスを皮切りに新型コロナ向けワクチン接種が始まった状況となり、ほのかな希望の光も見えてきた。

最後に、様々な規格案の審議が行われる中、国内委員会の皆様には多大なるご協力をいただいたことに感謝を申し上げますとともに、引き続きご支援ご協力を賜りたい。